

I. 出エジプト記第28章15節から30節によれば、裁きの胸当ては祭司の衣の中心的な項目であり、祭司の体系の中心的で究極的な点です：

出28:15 また、裁きの胸当てを、巧みな職人のわざで作らなければならない。それをエポデの作りのように、金色と青色と紫色と緋色の撚り糸、また撚り合わせた細糸の亜麻布で作らなければならない。

17 その中に宝石を満たし、四列の宝石をはめ込まなければならない。第一列は赤めのう、トパーズ、またエメラルドの列、21 その宝石はイスラエルの子たちの名にしたがい、彼らの名にしたがって十二でなければならない。それぞれの名にしたがって、十二部族のためにその名を彫らなければならない。

A. 裁きの胸当ての主要な目的は、神の導きのためでした。神の民は、胸当ての実際を通して得られた神の導きにしたがって行動します。

なぜ15節は胸当てに関して裁きという言葉を用いているのでしょうか？ その答えは、私たちが神の導きを知ろうとするなら、多くの裁きを持たなければならないということです。私たちは何であれ肉、自己、古い人、この世からのものを裁かなければなりません。私たちは肉の事柄や肉に付けられた思いを裁かなければなりません。この裁きは、私たちが神の導きを知る道を明確にします。

B. 胸当ては召会を予表しているのですから、もし私たちが召会を知らないなら、神の導きは何であるかを知らないのです。実は、神の導きと召会は一です。

C. 神は、召会を通して、召会によって、召会と共に、私たちが何を行なうべきかを啓示します。召会は神の導きです。なぜなら、召会は神聖なアルファベットを担っており、それによって、神は彼の導きを知らせるからです。

D. アロンの胸(心)に抱かれた胸当てが、エホバの御前での記念となることが表徴しているのは、キリストの愛の心に抱かれた召会全体が、建造された一つの実体として、神の御前での記念となり、喜ばしい記念となるということです。

主は団体の方法で、さらには合併された方法で私たちを抱きます。主イエスは私たちを共に建造しました。彼は私たちを一つの実体へと合併しました。胸当ては、十二の分離した、個別の石から成る一つの実体でした。これは、信者たちが区別のある個人であっても、分裂していないことを示します。イスラエルの子たちには十二部族がありました。それぞれの部族は胸当ての上の宝石によって代表されました。しかしこれらすべての宝石は、共に建造されて一つの実体となりました。ですから、胸当ては、実は金の枠の中にはめ込まれた宝石の建造でした。

II. 胸当ての上にある十二の宝石(その上にイスラエルの十二部族の名が彫られている)が表徴しているのは、神の贖われて造り変えられたすべての人々が、共に建造されて、一つの実体となっているということです:

出28:17 その中に宝石を満たし、四列の宝石をはめ込まなければならない。第一列は赤めのう、トパーズ、またエメラルドの列、20 第四列は貴かんらん石、縞めのう、また碧玉である。これらを金の枠にはめ込まなければならない。

A. 金の枠の中にはめ込まれた十二の宝石が象徴しているのは、造り変えられた宝石としての聖徒たちです。彼らは、キリストの神聖な性質の中で共に建造されて、一つの実体、すなわちキリストのからだとしての召会になっています。I コリント3:10 私に与えられた神の恵みにしたがって、私は賢い建築家のように土台を据えました。そして他の人がその上に建てます。しかし、どのようにその上に建てるか、各自は注意しなさい。11 なぜなら、据えられている土台のほかに、だれも他の土台を据えることはできないからです。この土台は、イエス・キリストです。12 ところが、その土台の上に、人が金、銀、宝石、木、草、刈り株をもって建てるなら、

B. 土のちりから創造された信者たちは召会の構成要素として、その霊の働きを通して、彼らの人の性質において、神聖な性質によって、また神聖な性質をもって造り変えられて宝石となり、神の永遠の建造とならなければなりません。クリスチャン生活は、造り変えの生活です。日ごとに神は、私たちを造り変えることを求めています。II コリント3:18 しかし、私たちはみな、主の栄光をおおいのない顔をもって、鏡のように見つめ、そして反映して、栄光から栄光へ、主と同じかたちへと徐々に造り変えられていきますが、それはまさに主なる霊からです。

C. 十二という数は、四(被造物)かける三(復活における三一の神)から成っており、三一の神と彼の被造物である人々がミングリングされて、満ち満ちた方法で完全に神の行政を遂行し、永遠に至ることを表徴しています。

D. 宝石が四列に配列されて、各列に三つの宝石があることが示しているのは、信者たちが造り変えられるだけではなく、また三一の神とミングリングされるということです。

E. 宝石を金にはめ込むことが表徴しているのは、造り変えられミングリングされた信者たちが、キリストの神聖な性質において建造されて、一つの実体となるということです。

F. 神の永遠のご計画においては、また神の永遠の観点によれば、キリストの心に抱かれ、彼の愛する顧みの度量の中で保持されている召会は、三一の神と贖われた人性とのそのようなミングリングです。 2・火

Ⅲ. 宝石の上に十二部族の名を彫ることは、信者たちの心の中へとキリストを書き記して、彼らをキリストの生ける手紙とし、キリストをその内容とすることに相当します：

A. キリストは、信者たちが彼を経験することを通して、また新約の務めの書き記すことによって、信者たちの心へと書き記されます。

Ⅱコリント3:2 あなたがたは私たちの手紙であって、私たちの心の中に書き記されており、すべての人に知られ、また読まれています。 3 あなたがたは、私たちが務めをすることによって書き記されたキリストの手紙であって、それもインクによってではなく生ける神の霊で書かれ、石の板ではなく心という肉の板に書き記された手紙であることが、明らかにされているのです。

4 またそのような確信を、私たちはキリストを通し、神に対して持っています。 5 私たちは、何かを自分から出たものと評価する資格が自分にあるというわけではありません。私たちの資格は神から来るのです。 6 神はまた私たちを新しい契約の奉仕者として、資格づけてくださいました。それは、文字ではなく、霊の奉仕者です。なぜなら、文字は人を殺しますが、その霊は人に命を与えるからです。

B. 十二の宝石の上に彫られた文字は、天的アルファベットの文字としてのキリストを予表します。

啓22:13 私はアルファでありオメガである。最初の者であり最後の者である。初めであり終わりである。」

C. もし私たちが造り変えられておらず透明でないなら、またもし私たちが生ける神の霊をもって、内容としてのキリストをもって書き記されたことがなく、単なる不透明な石であって、どのような文字も私たちの中へと書き記されていないなら、神が私たちを通して語ることは不可能でしょう。

出28:30 あなたは裁きの胸当てに、ウリムとトンミムを入れなければならない。そしてアロンがエホバの御前に出るとき、それがアロンの胸の上にあるようにし、アロンはイスラエルの子たちの裁きを、エホバの御前で絶えず胸の上に担わなければならない。

もし胸当てにはめ込まれた石が不透明であったなら、ウリムの照らす物がそれらを照らしても、そのような不透明な石を通して輝くことはできないでしょう。同じように、多くのクリスチャンは不透明であるので、キリストは彼らを通して輝く方法がありません。私たちは造り変えられる必要があります。そうすれば光が私たちを通して輝くとき、他の人は私たちの中へと書き記された文字、キリストの内容を読むことができるでしょう。しかし、もし私たちが造り変えられておらず透明でないなら、またもしキリストをもって書き記されたことがなく単なる不透明な石であって、どのような文字も私たちの中へと書き記されていないなら、神が私たちを通して語ることは不可能でしょう。

IV. ウリムとトンミムが胸当てへと入れられた後、それは記念となるだけではなく、裁きの胸当てともなりました：  
出28:29 こうして、アロンは聖なる所に入って行くとき、裁きの胸当てにあるイスラエルの子たちの名を胸に  
抱いて、エホバの御前で絶えず記念としなければならない。30 あなたは裁きの胸当てに、ウリムとトンミム  
を入れなければならない。そしてアロンがエホバの御前に出るとき、それがアロンの胸の上にあるようにし、  
アロンはイスラエルの子たちの裁きを、エホバの御前で絶えず胸の上に担わなければならない。

- A. 「ウリム」は、「光」、「照らす物」を意味します：**1.** ウリムは、照らす物であり、胸当ての中へと挿入され、十二の宝石の下にありました。それは、燃やすための油を入れることができました。そして、油を燃やすために用いられた火は祭壇から来ました。**2.** ウリムには十二の照らす物があり、それぞれは胸当ての上の十二の透明な宝石の一つを照らして、宝石が光をもって輝くことができるようにしました。**3.** ウリムは、光、照らす者としてのキリストを予表しており、その霊(油)と十字架(祭壇からの火)を通して輝きます。
- B. 「トンミム」は、「成就する者」、「完成する者」を意味します：**1.** 胸当ての十二の宝石の上にある名には、ヘブル語のアルファベットの二十二文字のうち十八文字だけが含まれていました。残りの四文字は、トンミムの上にあって、トンミムを成就する者、完成する者としてしました。**2.** ウリムが個々の宝石を照らすことによって、また宝石が暗くなることによって、二十二文字のアルファベットはすべて用いられて、単語と文章をつづることができました。**3.** トンミムは、成就する者、また完成する者としてのキリストを予表しています。こういうわけで、彼は書き記すための、また完成するための霊的なアルファベットです。**4.** ウリムとトンミムを一緒にすると、それは神を証しする者、神の証し、神が彼の民に語る手段としてのキリストを予表しています。
- C. 出エジプト記第28章30節、申命記第33章8節と10節において、神の裁きは、神の律法とその判定と裁きを指しており、ウリムとトンミムと関係があります。
- D. 出エジプト記第28章29節から30節の「裁き」という言葉が示しているのは、神は、彼の民の間にあるあらゆるものに関して、規則を持っているということです。裁きはある決定へと導きます。その結果として、私たちは神の導きを持ちます。
- E. 旧約によれば、胸当てに加えられたウリムとトンミムは、神が彼の民に語り、彼らに彼の導きを示す手段でした。こういうわけで、私たちは、裁きの胸当てが「導きの胸当て」であると言うことができます。
- F. 神が胸当てを通して導くことは常に、裁きと関係がありました。神の律法は彼の裁きを含み、これらの裁きは神の導きとなります。
- G. 私たちは霊的な経験において、神の導きを知るために、肉、自己、古い人、この世に属するものをすべて裁かなければなりません。
- H. ローマ第8章14節のその霊の導きは、神が胸当てを通して導くことの実際として、第8章1節から13節のすべての裁きの結果であり、またそのすべての裁きの総合計です。
- I. 神の導きである神の語りかけが胸当てを通してであったという事実が表徴しているのは、神が召会を通して、彼の民に彼の導きを知らせるということです。

V. 神の導きのための裁きの胸当ては、天的で、神聖で、霊的なタイプライターのようでした。神が、ウリムとトンミムを伴う胸当てを通して語る方法は、私たちが期待しているものとは正反対のものです：

A. 神は、輝く宝石を通して語るのではなく、暗くなる宝石を通して語ります。これは、神が消極的な状況を通して語ることを意味します。主が裁きの胸当てによって語ることは、消極的な状況を通してであるのですから、その語りかけは、裁きです。

B. 通常、胸当ての十二の宝石は、ウリムの輝きの下にありました。ある名が刻まれた部分が、突然、暗くなりました。この特定の宝石が暗くなることは、神の即時的な語りかけでした：

1. パウロの書簡と、アジアの七つの諸召会へあてられた主イエスの七つの書簡はすべて、この原則にしたがって書かれました。これらの書簡は、諸召会の消極的な状況にしたがって書かれており、諸召会において見いだされた積極的なものにしたがって書かれたものではありませんでした。

2. パウロは、コリントの消極的な状況を読み取ることによって、コリント人への第一の手紙を書きました。彼の手紙は消極的なものに基づいてはいましたが、彼は彼の書簡において積極的なものを、すなわち、キリストの豊富をその召会に供給しました。

3. コリントの聖徒たちは、パウロが彼の書簡を書いたときに用いた霊的なアルファベットとなりました。同様に、地方召会において、導いている人たちは、聖徒たちの実際の状況と状態を読み取ることによって、主の導きを求める必要があります。

4. 今日、クリスチャンの間にある問題は、あまりにも多くの暗やみがあるので、神には暗やみを暴露する方法がないということです。暗やみが明らかにされるためには、まず光の輝きがなければなりません。神は光の輝きのただ中で消極的となる事柄を通して語ります。

**民27:21** 彼は祭司エレアザルの前に立ち、エレアザルは彼のために、エホバの御前でウリムの判断によって尋ねなければならない。ヨシュアと、彼と共にいるイスラエルのすべての子たち、すなわち全集団は、エレアザルの言葉によって出て行き、彼の言葉によって入って来なければならない。

もしある召会で何が間違っているかを見いだすことができないなら、これはその召会が暗やみの中にあるというしるしです。暗やみが優勢であるとき、消極的な事柄が暴露されることはできません。このために、光が必要です。光の照らしの下で暴露されるものは、神の語りかけです。神は物事が消極的になることを通して語ります。このような消極的な状況は、キリストに欠けていることのしるしです。私たちは、このように消極的な状況を読み取ることによって、神の導きを知るようになります。そのとき、私たちは自分の地方において、神が私たちに何を行なってほしいのかを知るようになり、それから、私たちは彼の導きに従うべきです。

- C. もし私たちが召会として裁きの胸当てになろうとするなら、ある要求を満たさなければなりません：
1. 私たちは造り変えられて、透明になる必要があります。それから、キリストは霊的なアルファベットとして、はっきりと、また明確に私たちの中へと書き記されなければなりません。Ⅱコリント3:18しかし、私たちはみな、主の栄光をおおいのない顔をもって、鏡のように見つめ、そして反映して、栄光から栄光へ、主と同じかたちへと徐々に造り変えられていきますが、それはまさに主なる霊からです。
  2. 宝石に文字が書き記されていないなら、神が胸当てを通して語ることができなかつたように、神の贖われた民にキリストが書き記されていないなら、神は彼らを通して語ることができません。ヘブル8:10 それらの日の後に、私がイスラエルの家と結ぶ契約はこれであると主は言われる。私は私の律法を彼らの思いの中に分け与え、それを彼らの心に書き記す。私は彼らの神となり、彼らは私の民となる。
  3. 私たちは、造り変えられること、透明になること、書き記されること、照らされることに欠けているので、透明になるように、私たちの中へとさらにキリストが書き記されるように、さらに多くの照らしを経験するように祈る必要があります。啓22:1 また御使いは、水晶のように輝く命の水の川を私に見せた。それは神と小羊の御座から、大通りの中央を流れていた。21:11 それは神の栄光を持っていた。その光は最も尊い宝石のようであり、水晶のように透明な碧玉のようであった。  
ある程度まで、私たちは聖書を教えることができるかもしれませんが、なぜなら私たちは、何年間も聖書を読んで学んできているからです。しかしキリストを供給することになると、私たちは欠けています。キリストの多くは私たちの存在の中へとそれほど書き記されていません。おそらく私たちは、私たちの中へと書き記された一つの文字の一部分を持つだけでしょう。
  4. キリストが、霊的なアルファベットであって、書き記すためであり、また完成するためでもあるという事実は、彼が無尽蔵であることを示しています。私たちはキリストの書き記すことを享受しているかもしれませんが、依然として、完成されるために、彼に属するものをさらに多く必要とします。
- D. 胸当ては、からだの生活を建造することであり、私たちが、神の民に関する神のみこころを知る手段です。それから、私たちは、行なわなければならないことについて、あるいは行なってはならないことについて、主の裁き(判断)を受けます。私たちは主の道を知り、召会全体は主によって与えられた裁きにしたがって前進します。
- E. 私たちは、あらゆる地方召会が出エジプト記第28章の絵にしたがって、胸当てとなるように祈る必要があります。

## 経験(在職生活及び家庭生活編):

- ① 私たちは、胸当てが主の御前でアロンの胸(心)に抱かれていたことを見ます。これが表徴しているのは、神の御前でキリストの愛の心に抱かれた召会全体が、共に建造された一つの実体となっているということです。これは私たちにとって何と大きな慰めでしょう！私たちの間の多くは苦難と困難を持っています。私たちは仕事で、あるいは家庭で問題を持っているかもしれません。人の生活は容易ではありません。しかしながら、私たちはアロンの胸の上の胸当ての絵を考えるなら、自分は苦難、困難、問題の中ではなく、神の御前でキリストの心の上にあることを認識するでしょう。敵が来て私たちを悩ますとき、私たちは宣言すべきです、「サタンよ、今私は神の御前でキリストの心に抱かれている」。

人の生活は容易ではなく、実は戦いです。クリスチャン生活も同じです。霊的な戦いの生活において、サタンは度々あなたを訴えます。例えば、「残業や飲み会に付き合わずに集会に行っていると、会社でやっていけなくなるのではないか?」、「今日は疲れているので朝毎の復興や集会を休んだ方が健康にいいのではないか?」、「テスト中は子供に集会を休ませて勉強させた方がいいのではないか?」などのサタンからの訴えがあり、訴えに応じて考慮していると、あなたは弱くなってしまいます。会社の業務については何よりも集中して業務を行い、業績を上げることが最も重要です。また、あなたは健康に注意を払う必要がありますが、そのためにまず、毎朝霊が復興される必要があります。集会に参加して癒される必要があります。子供たちも含めて、あなたに必要な第一のことは神に対して信仰を持ち、絶対性を保持することです。バランスを保つことはその次の事柄です。あなたはサタンの訴えに対して、次のように宣言してください。「サタンよ、退け！私はまず、神の義と神の王国を追い求める!」、「サタンよ、退け！私はキリストの愛の心に抱かれている神の家族のメンバーである!」。

- ② 胸当ては、からだの生活を建造することであり、私たちが、神の民に関する神のみこころを知る手段です。それから、私たちは、行なわなければならないことについて、あるいは行なってはならないことについて、主の裁き(判断)を受けます。私たちは主の道を知り、召会全体は主によって与えられた裁きにしたがって前進します。

あなたは自分の天然の考えや好みに従って生活してはいけません。主とあなたを導いている兄弟姉妹に聞き、裁きの胸当ての判断に従う必要があります。主の導きはあなたの思いを超越しているので、あなたは思いを開き、心を開き、霊を開かなければ主の御声を聞くことはできません。また、あなたは自分の肉、自己、古い人、この世に属する物は全て裁かれなければなりません。

## 290 慕い求める — 主の御前に生きることを

- 1 あさなターなに主よ、われはなれをしたう世かいあり、  
なれ以がーいをしたわずに、たのしませや、ただなれを。  
くるしかなしいときにも、こころはげますもの一なきときも、  
なみだほほをぬらすときも、主よぬぐいて、なぐさめや。
- 2 わがゆめーはうるわしくも、ながうちにおらせたまえ、  
主のほかーにたのしませず、じぶん勝手にせぬように！  
しづかなよるにもとむるは、主がわれとともにいーますことぞ、  
あさつとーにわれもとむは、主のささやく、ほそきこえ。
- 3 みことばーに触れるたびに、みひかりもて見せたまえ、  
すくいぬーしとそのめぐみ、すべてわれにぞくするを。  
たよりもなくずおるとき、いのりを聞きてめぐーみたまえや、  
たとえいーのりとどかずも、ともにいませ、御かお見る。
- 4 てんのさーちをおもうたび、なれにまみゆるをしたう、  
主の来たーる日、ともにある、そのよろこび、待ちのぞむ。  
御まえに生くすべおしえや、あさ夕なれはわがひーとつ世かい、  
なれ以がーいをしたわずに、たのしませや、ただなれを。

## #290 羨慕—活在主面前

- 1 主耶穌、我羨慕活在你面前，在早晨，在晚上，只有一世间；  
不让我心快乐，若我在爱慕、在感觉、或思想无你的事物。  
每一刻，每一天，不论何痛苦，当世上正没有什么可鼓舞，  
当叹息正不禁，眼泪流滴滴，主，擦干我眼泪，平静我叹息。
- 2 我每次如梦想人生的善美，亲爱主，我求你，必须也在内！  
不让我离开你去寻求快乐，不让我凭自己去单独选择！  
当每夜万籁静，孤单自处时，主耶穌，我求你，仍与我同止；  
当每晨未破晓，我仍蒙昧中，求你来低声唤，将我耳开通。
- 3 当每次我虔读你圣洁话语，求你用你荣耀照亮每一句；  
让我能明看见：这宝贵救主，和祂的大救恩，无一不我属。  
当我正无倚靠跪到你座前，求垂听我祷告，赐够用恩典；  
有时候因有错，祷告你不听，别收回你同在，使我感不宁。

## 389. Longings - For Living in the Lord's Presence

- 1 Lord Jesus, I long in Thy presence to live,  
From morning to evening my one world Thou art;  
O let not my heart be contented or rest  
When loving or seeking what with Thee doth part.  
Each moment, each day, throughout suffering and pain,  
When nought in the world can give comfort or cheer,  
When sighing and weeping encompasses me,  
Lord, still all my sighing and wipe every tear.
- 2 Each time when I dream of the goodness of life,  
I pray Thee, dear Lord, that Thou in it may be;  
O do not allow me to choose by myself,  
Nor seek any pleasure that's other than Thee.  
Each night when alone in the stillness I lie,  
I pray Thee, Lord Jesus, that Thou wilt be near;  
Each morning ere dawn comes, while still in my sleep,  
Then whispering call me and open my ear.
- 3 Each time, Lord, when reading in Thy holy Word,  
I pray that Thy glory may shine on each line,  
That clearly I'll see what a Savior I have  
And how great salvation that Thou hast made mine.  
When helpless I come, Lord, to kneel at Thy throne,  
I pray Thee to hear me and grant me Thy grace;  
If thru my shortcomings Thou hear not my prayer,  
Withdraw not Thy presence, O hide not Thy face.



胸当ての上にある十二の宝石  
(その上にイスラエルの十二部族  
の名が彫られている)